

予定外の妊娠が、想定外の母子感染に？

妊娠に気づいた時はすでに妊娠 3 週以降です。

妊娠初期※に、母体から胎児にまで感染がすすんだ場合、

胎児に重篤な障がい起きる可能性が最も高いのです。

妊娠に気づいていない時期に、赤ちゃんにとってハイリスクな行動をとってるかもしれない。

妊娠する前に知っておく、母子感染予防——。

※後期に感染者が多い感染症や、後期での感染が問題になる感染症もあります。

風疹だけじゃない、 TORCH 症候群。

トーチ症候群とは、妊娠中の感染によって「胎児に重篤な障がいや、流産等を引き起こす母子感染症」の総称で、トキソプラズマ症、風疹、サイトメガロウイルス感染症、梅毒などが含まれます。

先天性トキソプラズマ&サイトメガロウイルス感染症患者会「トーチの会」では、認知度の低いこの感染症に対する正しい知識を、妊婦さんや妊娠可能なあらゆる世代に知ってもらうため、啓発活動を行っています。

※トキソプラズマとサイトメガロウイルスは、健康な人が感染しても基本的に問題はありません。

※妊娠前に既に感染して免疫がついているかどうかは、医療機関における抗体検査(任意)によって調べることができます。

避妊しないなら
すぐ予防!!

妊娠中の感染予防のための注意事項 - 11か条

1. 石鹸と流水で、しっかり手を洗ってください。
2. 小さな子供とのフォークやコップの共有、食べ残しを食べることはやめましょう。
3. 肉は、しっかりと中心部まで加熱してください。
4. 殺菌されていないミルクや、それらから作られた乳製品は避けましょう。
5. 汚れたネコのトイレに触れたり、掃除をするのはやめましょう。
6. げっ歯類(ネズミの仲間たち) やそれらの排泄物(尿、糞) に触れないようにしましょう。
7. 妊娠中の性行為の際には、コンドームを使いましょう。
8. 母子感染症の原因となる感染症について検査しましょう。
9. B群溶血性レンサ球菌の保菌者であるか検査してもらいましょう。
10. ワクチンが存在する感染症(たとえば、麻疹、風疹や水痘) から自分と胎児の身を守るために、妊娠前にワクチンを打ちましょう。※1
11. 自分が十分な抗体を持っていない場合、水痘や風疹などに感染している人には近づかないようにしましょう。※2

※1 現在妊娠している方は、出産後、なるべく早く次の妊娠までの間にワクチンを打ちましょう。

※2 感染者に接触した場合はすぐに病院に連絡して下さい。水痘や麻疹の場合は、すぐに免疫グロブリンの注射をすることで発症を防ぐことができるかもしれません。

